

令和3年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|---|-----|--------|
| 1 | 2番 | 寺田幸弘君 |
| 2 | 7番 | 藤原正光君 |
| 3 | 13番 | 松本均君 |
| 4 | 11番 | 窪野愛子君 |
| 5 | 16番 | 鷺山喜久君 |
| 6 | 5番 | 藤澤恭子君 |
| 7 | 14番 | 小沼秀朗君 |
| 8 | 3番 | 勝川志保子君 |
| 9 | 17番 | 草賀章吉君 |

令和3年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

3/8 AM 2番 寺田幸弘君

7番 藤原正光君

PM 13番 松本均君

11番 窪野愛子君

16番 鷺山喜久君

3/9 AM 5番 藤澤恭子君

14番 小沼秀朗君

PM 3番 勝川志保子君

17番 草賀章吉君

一般質問通告要旨

| | | | | |
|------|---|----|------|---|
| 議席番号 | 2 | 氏名 | 寺田幸弘 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|---|----|------|---|

1 新型コロナ感染症禍における学校教育について (答弁：市長、教育長)

昨年、緊急事態宣言により、3月2日から全国全ての学校が一斉臨時休校となり、本市でも年度をまたぐ休校措置をとり、5月25日からの学校再開となった。学校現場では授業時間確保のため、夏季休業期間の短縮、学校行事縮小や中止を余儀なくされ、その対応に追われ苦慮したと聞いている。加えて小学校では新学習指導要領の完全実施年度と重なった。そこで、現在までの状況と来年度やコロナ終息後を見据え、教職員の負担等も含め多方面から捉えた対応について伺う。

- (1) 長期にわたる休校措置に伴う授業時間をどのように確保したのか伺う
- (2) 小中学校の修学旅行や宿泊訓練など、学校行事の日程変更や中止を含め、今年度の対応について伺う
- (3) 新型コロナウイルス感染症関連で、関係者への誹謗中傷が社会的な問題になっているが、教育現場として対処してきたことがあるか伺う
- (4) 学校の長期休校措置後、不登校傾向となったり、情緒が不安定になったりした児童や生徒がいるのか伺う
- (5) 小中学校の感染症対策として、毎日の消毒、清掃、健康チェックなど今までにない多くの業務が生じているが、現状とその対応策について伺う
- (6) 今後、再び学校が長期にわたる休校措置が要請された場合の対処をどのようにしていくのか伺う
- (7) 小中学校の「特別の教科 道徳」を本市ではどのような教科として指導を行い、評価してきたか伺う
- (8) 小学校の新学習指導要領では、3・4年生は外国語教育活動が年間35時間、5・6年生には外国語の授業が年間70時間加わった。各学校はその増加時間や、担当教員をどのように確保したのか伺う
- (9) 将来の掛川を背負っていく子どもたちに、伝統や文化に見識の深い地域の人の力を借り、郷土愛を育む教育が今以上にできないか伺う
- (10) 今年の1月27日の報道では、小学校5・6年生の理科、算数、英語について2022年度から教科担任制を導入すると中央教育審議会の答申があったが、本市として専門教科教員確保や養成について、どのように考えているか伺う
- (11) 来年度の教育関係予算で、部活動指導員の配置事業費が増額され教員の負担減が図られたが、今後の部活動の位置づけについて伺う
- (12) 教員の長時間勤務を打破すべく早急に教員数を増やすとともに、年間行事の精選や業務を簡略化し、負担軽減につなげるべきと思うが見解を伺う

一般質問通告要旨

| | | | | |
|------|---|----|------|---|
| 議席番号 | 7 | 氏名 | 藤原正光 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|---|----|------|---|

1 歴史的資源を活かした地域活性化策について (答弁：市長、教育長)

歴史的資源を活用したまちづくりを進め、本市のブランド力を向上させ地域活性化を図ることが必要と考える。しかし、少子高齢化・人口減少により歴史や伝統の継承が困難になりつつある。色濃く残る歴史・文化を再認識し、地域に誇りを持つ市民を増やす施策が必要と考え、以下を伺う。

- (1) 2028年に横須賀城築城450年を市民や歴史関係者で祝い、記念イベントやグッズ販売で歴史を再認識し、文化継承につなげることが有効と考えるが、見解を伺う
- (2) 市内三城がそれぞれ赤・白・緑の桜で三城ものがたりをつくるように職員に指示したと聞いているが、その後の進捗状況を伺う
- (3) 久留米城初代藩主の有馬豊氏入城400年イベントが行われている。これをきっかけに、有馬豊氏が初めて城主になったのが横須賀城というご縁を活かし、郷土愛を育む遠隔授業による交流等をアプローチしていく考えはないか伺う
- (4) 2023年大河ドラマ「どうする家康」で徳川家康の生涯が描かれる。家康の采配として成功した掛川三城を、さらにPRし、地域おこしに結びつけていくことが有効と考えるが見解を伺う
- (5) 史跡横須賀城跡整備計画の西大手・南外堀ゾーンの見直し案を、より実のある整備につなげるために、現県道をいち早く南側にバイパス化して、後の公園整備の推進につなげることはできないか伺う

2 価値ある掛川市海岸線地域ビジョンの策定について (答弁：市長)

掛川市海岸線地域ビジョン(案)のパブリックコメントが行われた。ビジョンが策定されれば、東日本大震災以降、津波の被害が想定される海岸線地域のマイナスイメージが払拭され、本市の海岸線地域が夢のあるエリアになっていくことが期待される。そこで、以下の点を伺う。

- (1) 松枯れが深刻である弁財天海浜公園の保全と管理について、市長の見解を伺う
- (2) オーシャンゴルフクラブが魅力的な地域資源として活用されていくには、海岸線地域ビジョンに先駆けて松枯れ対策を進める必要があると思うが見解を伺う
- (3) 一般財団法人日本菌根菌財団は、中部電力(株)と協力してクロマツに菌根

菌を入れた研究をしていくという状況もあるが、掛川市も一緒に取り組む考えはないか伺う

- (4) 地域資源として大須賀B&G海洋センタープールが紹介され、活用していくと捉えているが、合わせて解体された体育館跡地を保健休養機能の拠点として活用していくことが効果的と考えるが、見解を伺う
- (5) 長年の懸案であった西大谷トンネルを巡回したバイパス化工事の竣工を記念して、富士山や海岸線の綺麗な海が一望できる場所をオープンカットの上につくり、子供たちに魅力を伝えていくことができるか伺う

3 脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて

(答弁：市長)

近年、地球温暖化も要因として、災害級の猛暑や熱中症による搬送者・死亡者数の増加のほか、数十年に一度といわれる台風・豪雨が毎年のように発生し、深刻な被害をもたらしている。そのような中、2020年10月の「2050年カーボン・ニュートラル」宣言に続き、11月20日には国会で「気候非常事態宣言」が決議された。もはや地球温暖化問題は気候変動の域を超えており、一刻も早く脱炭素社会の実現に向けて更に加速させる必要がある。そこで、以下の点を伺う。

- (1) 本市の気候変動適応計画を策定するべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 市内企業の脱炭素に向けた取り組みに対する独自支援策について伺う
- (3) 二酸化炭素(CO²)を作物の生育増進に利用する「農業トリジェネレーション」を推進していく考えはないか伺う
- (4) 環境省は来年度から、二酸化炭素(CO²)の排出を2050年までに実質ゼロにすることを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言した自治体への支援を強化するが、本市も宣言をして支援策を活用していくべきと思うが、見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

| | | | | |
|------|----|----|-------|---|
| 議席番号 | 13 | 氏名 | 松 本 均 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|----|----|-------|---|

1 養護老人ホームについて

(答弁：市長)

現在、掛川市には2つの養護老人ホーム（ききょう荘・小笠老人ホーム）があり、ききょう荘は昭和30年に認可され、昭和55年に現在の施設を建築し、すでに40年が経過している。また小笠老人ホームは昭和43年に認可され、平成2年に改築し、こちらも30年が経過している。

ききょう荘は掛川市が設置し、社会福祉法人掛川社会福祉事業会に指定管理を委託している。小笠老人ホームは小笠老人ホーム施設組合が設置し、社会福祉法人大東福祉会が指定管理者となり、菊川市・御前崎市・掛川市の3市による深いご理解と地元のご協力と共に運営がされてきた。

近隣市では、施設入所者の減少による管理組合の解散や、1市での単独運営などが散見される。当市においても施設の老朽化や、利用者のプライバシー・人権などへの配慮ができない状況である。また、コロナウイルスのような感染症の対策についても不安である。このようなことから、今後のあるべき施設の姿について、市長の考えを伺う。

- (1) 最近の両養護老人ホームの入所者数の推移について伺う
- (2) 両養護老人ホームにおける掛川市の経費負担について伺う
- (3) ききょう荘の老朽化に対する今後の整備計画について伺う
- (4) ききょう荘の土砂災害対策についての考え方を伺う
- (5) 両養護老人ホームの統合協議会を設置すべきと思うが、市長の見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

| | | | | |
|------|----|----|---------|---|
| 議席番号 | 11 | 氏名 | 窪 野 愛 子 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|----|----|---------|---|

1 犯罪被害者等支援条例制定について

(答弁：市長)

犯罪被害者等基本法が平成16年に施行された後、令和2年度現在までに静岡県及び県内6市町において、犯罪被害者等支援条例が制定されている。本市の条例制定への取り組みについて、すでに2回一般質問を行ってきたが、未だ条例は制定されていない。そこで以下について伺う。

- (1) 昨年9月定例会の一般質問では、犯罪被害者に寄り添った支援内容を含む条例となるよう検討を進めるとの回答があったが、どのような支援内容を条例に盛り込むことが良いと考えているのか、現在までの検討状況を伺う
- (2) 本年度の犯罪被害者支援連絡協議会が昨年11月、掛川警察署において開催されたが、危機管理課をはじめとする庁内関係各課では何回会議を開き、どのようなことを検討されてきたのか伺う
- (3) 県内の犯罪被害者等支援条例制定の状況は、平成27年静岡県、平成29年藤枝市、平成30年長泉町、平成31年裾野市、令和2年菊川市、湖西市、島田市が制定している。掛川市の犯罪被害者等支援条例制定の時期について見解を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

| | | | | |
|------|----|----|---------|--|
| 議席番号 | 16 | 氏名 | 鷲 山 喜 久 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> ・一括) |
|------|----|----|---------|--|

1 和田岡原地内における誤った登記の対応について (答弁：市長)

和田岡原地内においてファームポンド用地が誤って登記処理され、地権者の同意が得られず改修工事が中断している。そこで、市長に伺う。

- (1) 市長自らが直接謝罪し、解決に向けた協力要請を行ったのか伺う
- (2) 防除組合関係者や県と協力し、問題解決にあたっているのか伺う
- (3) 市議会から早期に解決するよう提言しているが、見通しはあるのか伺う

2 (仮称)本村橋について (答弁：市長)

山口橋の側道橋は完成が間近であるが、その上流にかかる(仮称)本村橋は地元の方が早期完成を願う橋梁である。そこで伺う。

- (1) 市の考え方と実現の見通しを伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

| | | | | |
|------|---|----|---------|---|
| 議席番号 | 5 | 氏名 | 藤 澤 恭 子 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|---|----|---------|---|

1 原子力防災体制について

(答弁：市長、教育長)

東日本大震災から10年が経過してもなお、大きな余震が起こり、改めて市民の危機管理に対する再認識の重要性を感じる。市民の災害、防災への意識は高まっているものの原子力災害においてはまだまだ意識も低い。平成30年に掛川市原子力災害広域避難計画が策定されたが、課題は多く、いざという時のためのマニュアル作成には、継続的な審議が必要である。UPZ圏内にある掛川市民を、災害や混乱から守る対策と進捗状況を再度伺う。

- (1) 掛川市原子力災害広域避難計画の実効性を伺う
- (2) 原子力災害時の対応について、市民への周知啓発の取り組みと見解を伺う
- (3) コロナ感染拡大防止により中止した、ヨウ素剤配布訓練の本年度の改善策と今後の予定を伺う
- (4) 安定ヨウ素剤の事前配布の要望を、国や県へ行っているが、その成果と今後の方向性を伺う
- (5) 当市にある放射線防護施設が大東支所のみでは不安であるが、見解を伺う
- (6) 計画では、放射線防護施設は身体や知的障がい者、要介護4級の方などの要援護者の一時避難場所となる。適切な対応ができる人材の配置など、避難所運営の見直しが必要だと考えるが、所見を伺う
- (7) 幼稚園、保育園、認定こども園、小中学校における原子力災害の避難訓練及び備蓄状況と今後の展望を伺う
- (8) 市民の混乱を少しでも軽減するため、現実に即した備蓄や避難訓練など、市民目線でできる原子力防災への取り組みや、対応の必要性を感じるが見解を伺う

一般質問通告要旨

| | | | | |
|------|----|----|------|---|
| 議席番号 | 14 | 氏名 | 小沼秀朗 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|----|----|------|---|

- 1 中学校区学園化構想「若つつじ学園」対象校「横須賀高等学校」について
(答弁：市長、教育長)

掛川市教育委員会では、「夢とこころざしを持ち、ともに学び、豊かな未来を創造するひと」を基本目標として、地域連携による園・学校支援活動などを通じて、市民総ぐるみで教育活動を推進している。市内9つの中学校区学園化構想のうち「若つつじ学園」を構成している「横須賀高等学校」について、以下を伺う。

- (1) 「若つつじ学園」における「横須賀高等学校」の意義と評価を伺う
- (2) 「若つつじ学園」を構成している「横須賀高等学校」と「池新田高等学校との再編統合計画」に掛川市教育委員会は今後どういった対応をとるのか伺う
- (3) 立地適正化計画における都市機能誘導区域に隣接する横須賀高等学校の果たす役割を伺う

- 2 小笠山総合運動公園（以下：エコパ）への県立野球場誘致について
(答弁：市長)

県立野球場をエコパへ誘致することは、交通アクセスや財政面からも有効的と考え、以下を伺う。

- (1) 遠州灘海浜公園（篠原地区）整備には多額の財政負担が見込まれることから、「公園の配置計画に関する比較検討プラン（原案）」を見直し、県民の意見等を再聴取するとのことである。用地買収の必要がなく、予算面において優位であるエコパへの県立野球場誘致（案）を県へ提言する考えはないか伺う
- (2) 野球場管理費の公費負担を軽減するには、民間活力導入が不可欠である。収益事業に優位なアクセスの良いエコパへの県立野球場誘致を、中東遠地区の自治体と連携し県へ提言できないか伺う
- (3) 県立野球場誘致ができない場合、より豊かに楽しい人生を送り、選ばれる地方都市となるよう、県の土地を提供していただき、エコパ内にプロ野球公式戦を観戦できる規模の掛川市営野球場を創設できないか伺う

- 3 市内治水対策について
(答弁：市長)

平成30年7月豪雨、令和元年房総半島台風・東日本台風など、ここ数年気候変

動の影響等により激甚な風水害が頻発している。水害から市民の命と暮らしを守る防災・減災対策となる治水対策について、以下を伺う。

- (1) 一級河川菊川では「菊川流域治水協議会」を立ち上げ対策を進めているが、市内中心部を流れる二級河川逆川については、どのような治水対策を進めていくのか伺う
- (2) 掛川市は、本年度から3か年かけて「掛川市総合治水計画」の策定を進めているが、現段階での進捗状況と今後の計画を伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

| | | | | |
|------|---|----|-----------|---|
| 議席番号 | 3 | 氏名 | 勝 川 志 保 子 | 質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括) |
|------|---|----|-----------|---|

1 コロナ禍から市民の命と生活を守る施策について (答弁：市長)

新型コロナウイルス感染症の影響の拡大と長期化で、市民の中に生活苦に喘ぐ方々が増加している。今ある市民の危機に寄り添う支援、感染の拡大を防ぎ次の波を起こさないための施策など、まさに政治の力が試されている。市民に寄り添う施策を伺う。

- (1) 抗原検査を迅速に行ない、クラスター発生を未然に防ぐための具体的な行動計画を伺う
- (2) 抗原検査にとどまらず、必要に応じてPCR検査を公費負担で面的に行なう必要があると思うが、見解を伺う
- (3) 今後も緊急性の高い生活相談の増加が危惧されるが、迅速にセーフティネット制度につなぐ手立てを伺う
- (4) 支援制度の枠組みから漏れてしまいがちな小規模事業者や非正規雇用者などへの直接支援策の必要はないか伺う
- (5) ワクチン接種について、計画されている医療機関での個別接種のほか、施設への巡回接種併用などを検討すべきと考えるが、見解を伺う

2 ふるさと納税のあり方について (答弁：市長)

様々な問題が指摘されるふるさと納税制度である。寄付金の使途が寄付する方にも、市民にも良く分かる形で使われるための制度運用のあり方を伺う。

- (1) 寄付金のうち、市長裁量分は例年30%を超すが、松ヶ岡整備に使われた3,362万4千円を除き、市長裁量分は次年度に使われず基金に積み立てられており、その額は現在4億7,961万円に上っている。今期で退任される松井市長がこれまで積み立てた市長裁量分の運用は、誰がどのような基準で行なうのか伺う
- (2) 今後、市長裁量を自治体裁量に切り替え、事業内容や目的を示すなどして、使途を明確にした寄付とするべきだと考えるが見解を伺う
- (3) 市長裁量分以外も、事業内容がよく分かるようにして、寄付する側が意志を持って選択でき、市民にも使い道がよく分かるよう変更することができないか伺う
- (4) 今回開始される企業版ふるさと納税は、市の自主性を重んじ、企業との癒着を生まない運用が大切だと考えるが、どのようにそれを担保するのか伺う

3 核兵器禁止国際条約の批准について

(答弁：市長)

掛川市は2007年に非核平和都市宣言を行ない、世界に向かって核兵器の廃絶を発信している。国連で採択された核兵器禁止条約は50カ国を越える批准を経て、今年1月22日に国際条約として発効した。条約によって、核兵器は絶対悪として、その製造から使用、威嚇に至るまで国際法上違法となった。しかしながら、唯一の被爆国である日本政府は、この条約の参加に背を向けている。非核平和都市宣言を行なった自治体として、核兵器のない世界を目指しどのように取り組むのか伺う。

- (1) 被爆者をはじめ各界代表の呼びかけにより、日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名が現在集められている。市長として署名をし、国に対して核兵器禁止条約への参加を促す考えはないか伺う
- (2) 市役所に条約の発効を示す垂れ幕の掲示を行なう考えはないか伺う
- (3) 条約発効の今年、改めて原水爆被害の悲惨さや、この条約の意義について学ぶ機会をつくり、核兵器禁止への機運を高める取り組みができないか伺う
- (4) 市役所ロビーや市の平和式典などで、原爆展開催などの企画が考えられないか伺う

4 コロナ禍における選挙権の行使を保障する手立てについて

(答弁：市長)

今年は各種選挙が予定されている。コロナ禍の影響で、候補者の公約等を有権者に届けることも難しくなっている。外出禁止・面会禁止の高齢者施設なども多く、投票に行くことが難しい方々もいる。選挙権を保障し、政治参加を促して投票率を向上させるための市の施策を伺う。

- (1) 選挙公報などを新聞折り込みだけに頼らず、しっかり有権者に届けるための方法やSNSの活用方法を伺う
- (2) バリアフリーになっていない第二投票区投票所の見直しや対応を伺う
- (3) 商業施設や駅などへの期日前投票所開設、投票バス巡回など、期日前投票の利便性向上策を伺う
- (4) サービス付高齢者住宅やグループホームなどの居宅介護施設における選挙権の行使を保障するためにどのような手立てを取るのか伺う
- (5) 煩雑な手続きが必要な不在者投票について、投票方法の周知や、選挙公報をQRコードで添付するなど、より利用しやすくするための工夫を伺う

一般質問通告要旨

| | | | | |
|------|----|----|------|-----------------|
| 議席番号 | 17 | 氏名 | 草賀章吉 | 質問の方式 (一問一答・一括) |
|------|----|----|------|-----------------|

1 広報かけがわ2月号の記事「～高校生が描く掛川市～」について (答弁：市長)

掛川西高校の4人の生徒が「掛川市民の日」を定めたらどうか、との提案の記事を拝見した。「6月の砂漠にオアシスを」「6月第1週を3連休に」「特別イベントで多世代交流」など、掛川市を思う気持ちに嬉しくなった。私もこの発想に大賛成の立場から、下記について市長に伺う。

- (1) 「広報かけがわ」に取り上げた意図について伺う
- (2) 若い世代の提案であり、あえて広報に取り上げるには、前向きな検討がなされるものとするが、具体的に検討されているのか伺う
- (3) 平成19年7月4日に制定された「掛川市民憲章」の精神とともに、「掛川市民の日」を設定し、市民にとって特別の日となるような取り組みができればと思うが、見解を伺う

2 敬老会のあり方について (答弁：市長)

令和2年度は、敬老会の開催を区長会連合会に諮り、早期に中止を決定した。新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言が発出された頃であり、適切な判断であったと思うが、敬老会対象の高齢者からは、残念だという声が多くあった。令和3年度は、例年通り予算も3千万円強が計上され、予定通り開催できるものと嬉しく思う。しかしながら昨今の世情を見聞きしていると、「敬老」という文字が空虚にも感じる。「老害」なる言葉も発せられるなど寂しい限りである。「人生100年時代」における高齢者を敬い、思いやる心の大事さを改めて訴えることが必要である。そこで、以下について伺う。

- (1) 各地区での敬老会の開催方法は様々であるが、実情と市長の主観的評価を伺う
- (2) 敬老会イベントへの参加率が5割程度であると思われるが、どのように評価しているか伺う
- (3) 「人生100年時代」における高齢者への敬い、感謝、ねぎらい、優しさを市民にどのように啓発したらよいか、具体的な対策を伺う

3 不適切行政事務処理のその後について (答弁：市長、教育長)

和田岡原地内における登記の誤処理の問題、家代の里地内における緑地の売却の問題など、このような事案は二度とあってはならないが、いつ起きてもおかしくない事案である。

「のど元過ぎればなんとやら」とならぬよう、その後の対応が大事であると考え、以下について伺う。

- (1) 議決前予算執行問題のその後の対応と現在の状況について伺う
- (2) 個人情報を持ち出し問題のその後の対応と現在の状況について伺う
- (3) 和田岡原地内における登記の誤処理問題のその後の対応と現在の状況について伺う
- (4) 家代の里地内における緑地の売却問題のその後の対応と現在の状況について伺う

4 松井市長が願う明日の掛川市について

(答弁：市長)

松井市政3期12年、ともに歩んできた。新市合併4年後の行政は課題だらけの船出だった。医療・福祉・子育て環境整備・企業誘致など、松井市政により掛川市は大いに成長したと評価している。「協働によるまちづくり」は、多くの市民の共感を得て多くの課題解決に繋がった。まだ道半ばだとは思いますが、以下について伺う。

- (1) 3期12年の成果を踏まえ、市長の願う明日の掛川市について伺う
- (2) 掛川市のトップリーダーに望むことはどのようなことか伺う